

# 丹後機業の動き

## 東日本大震災の影響により、和装市況は先行きの見通し立たず

- 日本銀行が3月15日に公表した3月の金融経済月報によると、景気の先行きについて「穏やかな回復経路に服していく」としながらも、3月11日に発生した東日本大震災の影響により「当面、生産活動の低下が見込まれるほか、企業や家計のマインドの悪化も懸念される」として、経済への打撃を警戒する姿勢を示した。
- 東日本大震災により、東北地域が甚大な被害を受けた上、大消費地である首都圏の百貨店や小売店等が計画停電に伴う営業時間の短縮で売上が減少する等、影響は大きく、今後、催事の中止や店頭販売の減少により和装市場がますます冷え込むことが懸念される。
- 原料生糸の大半を輸入している中国では、生糸価格が主要産地の都市化による桑畑面積の減少や製糸工場における労働力減少や人件費アップによりコスト高となり、一昨年1月から昨年12月まで2倍近く高騰している。また、中国からの最大の生糸輸出相手国であるインドが本年4月から生糸の輸入基本関税を現在の30%から一挙に5%に引き下げることと決定しており、インドへの生糸輸出の大幅拡大により、生糸輸出価格の更なる上昇も予想される。
- 丹後産地では、原材料の生糸の値上がりにもかかわらず製品価格への転嫁抑制圧力が強く、原料高・製品安となっており、産地機業の採算悪化は顕著である。さらに白生地 of 精練工程においても重油や薬品の価格高騰により加工コストが上昇しており、採算が厳しくなっている。
- こうした中、捻糸、紋紙、整経、機拵、製織、加工などの分業構造が集合体として機能してきた産地であるが、従事者の高齢化が進んでいるにもかかわらず、若年労働力の参入が少なく、仕事量の減少により近年では、その「ほころび」が目立ってきた。今後、分業種内での横の連携や、各分業種を貫く縦のグループ化、得意分野を持ち合った機業連合体構築などの取り組みが必要な時期にきていると思われる。

(調査時期：平成23年3月中旬～3月下旬)

(調査機関：(財)京都産業21 北部支援センター)

### 【ちりめん(白生地)】

- 平成22年(1～12月)の生産数量は、51.5万反で前年比102.5%(無地11.7万反・同118.8%、紋39.8万反・同98.5%)となった。一昨年 of 大幅減産の反動により、無地は増産、紋生地は微減で全体では久しぶりにほぼ前年並みとなった。
- 平成23年1～2月の生産量については、7.5万反で前年比96.2%(無地97.7%・紋95.7%)となっている。1月は無地及び紋生地とも前年比を上回ったものの、2月は両方とも減産に転じた。
- 財務省の貿易統計によると、平成22年(1～12月)の小幅白生地輸入数量(無地及び紋)は、40.5万反で前年比102.7%と微増であった。うち主たる輸入先である中国からは、32.1万反で前年比97.4%と微減であった。なお、平成23年1月は、前年同月比1割減で再び減少に転じた。
- 小売販売の苦戦により実需が伸び悩む中で、昨年(平成22年)は、産地では一昨年 of 大幅減産による反動で市中在庫の調整が進んだのと原料糸の先高感による仮需で生産数量が維持できたものと思われる。しかしながら、販売不振により小売価格がアップできない中で、原料糸価の高止まりにより確実に製造原価は上昇しており、産地機業の採算は厳しくなっている。
- このような厳しい状況の中、企画物を積極的に仕掛けている機業では採算を確保し、出機の良好な稼働を維持しているところもある。

### 【帯地】

- 平成22年(1～12月)の西陣帯地推定出荷数量は、84.2万本で前年比112.8%となった。主力の袋帯、なごや帯がともに前年比約3割増の出荷数量となり、帯地全体では久しぶりに前年を超える出荷数量となった。

- 産地では、振袖用値頃品・ハデ帯を製織する一部機業で健闘している他は、特に高級品の販売不振等から受注確保に苦勞するなど、全体的には生産は抑えられている。
- 定番品では原料糸高等のコストアップにより、問屋にメーカー出し値の値上げを要求しても販売不振や上代 of 下落により思うように、値が通らない状況にある。

### 【広幅織物】

- 服地では、正絹は相変わらずスポット的な受注しかない。ポリちりは実需減でピーク時に比べ生産量は大幅に減少しており、引き続き先細り状態にある。ポリちり製品に売筋商品が見出せない中にある別 of 製品展開を模索される機業もある。
- ネクタイは、ロードサイド店向けは輸入商品に圧倒されている。しかし、輸入商品の品質低下により、生産を一部国内へ戻す動きがあり、春物の追加発注をとれる機業は稼働状況は回復している。
- カーシートは、コストダウン要請の厳しさは変わらず、受注量も減少し、採算が厳しくなっている。産地機業の中には先行きの見通しが不透明なことから、他の生地素材への転換を図る動きも見られる。

### 【小物他】

- 風呂敷では、正絹は催事用等で実需分のみ底堅く推移している。レーヨン、ポリちりについては全体的には需要減であるが、記念品で大口の受注をとった一部の機業は稼働が好調であった。
- 帯揚、衿等の正絹小物は中国からの輸入物が減少したことにより、産地の生産は増えている。